

この映画は沖縄の基地を減らして欲しいなどという生易しいものを描いてはけません。知事を先頭に国と全面对決してでも沖縄が止めたいものは、日本という国で息を吹き返そうとしている「戦争」そのものです。

それが見えているから沖縄は屈しません。辺野古のゲートや海上で彼らに襲いかかってくる権力は、警察、防衛局、海上保安庁にその姿を変え、素手の県民をおさえつけます。 三上智恵

「映画『戦場ぬ止み』 <http://ikusaba.com/> 公式 HP より」

『標的の村』

三上智恵監督 渾身の最新作

ドキュメンタリー映画

音楽 小室等 ナレーション Cocco

あの『標的の村』から2年、
沖縄で今、
何が起きているのか。



2015.1.10(日)

せんだいメディアテーク7Fスタジオシアター

①10:30 ②13:00 ③15:30 ④18:00 各129分
参加費 一般 前売り1,000円 当日1,300円
学生 500円 当日も同じ・中学生以下無料

☆前売り券のお求めは(11月10日より発売)

メディアテーク1F museumshop6

☆電話でのご予約も賜ります。下記までご連絡下さい。

連絡先 022-248-2866春日・090-7936-3437須藤

今年の十一月こそ 戦場にとどめをさして終わらせよう
沖縄の思いを世界に知らせましょう

二〇一四年十一月 知事選の前に 有銘政夫さん詠む

今年十一月も
戦場ぬとどめ
沖縄の思い
世界に語り

主催 「テロにも戦争にNOを！」の会

沖縄で今、何がおきているのか？

— 「日本人」が知っている「基地問題」は虚像かもしれない —

日本にあるアメリカ軍基地・専用施設の74%が密集する沖縄。今、辺野古の海を埋め立て、最新のアメリカ軍基地が作られようとしている。巨大な軍港を備え、オスプレイ100機が配備されるそれは、もはや普天間基地の代替え施設などではない。

2014年8月14日、大浦湾を防衛局と海上保安庁の大船団が包囲。日本政府は機関砲を装備した大型巡視船まで投入して、建設に抗議するわずか4隻の船と20艇のカヌー隊を制圧した。陸上でもなんとか工事を止めようと市民が座り込みを続ける。基地を作るのは防衛局だが、市民の前に立ちはだかるのは沖縄県警機動隊と民間警備会社。国策に引き裂かれ、直接ぶつかり合うのは県民同士だ。「私を轢き殺してから行きなさい」と工事車両の前に身を乗り出したのは、あの沖縄を生き延びた85歳のおばあ。彼女にとって沖縄はずっと戦の島。それを押し付けるのは日本政府だった。

三上 智恵

Cocco

ギロチンか 電気イスか 苦渋の選択を迫られたとして

それはいずれも“死”だ。

辺野古か普天間かを問われるから 沖縄は揺れ続ける

口をつぐんでしまった友、

デモに参加する友、

自衛隊に勤める友、

みんな心から沖縄を愛する 私の大切な友です。

ギロチンか電気イスかではなく

根底からの「NO」を誰もが胸に抱いている。

人として当たり前と与えられているはずの

正しいやさしい選択肢が欲しいと

私は、そう思うのです。